

# IHSS

## Kinki Univ.

### 近畿大学

### 健康スポーツ教育センター研究紀要

#### 第6巻 第1号

#### 2007

#### 〈特集 競技スポーツと大学教育〉 — 学生課外スポーツの現状と課題 —

特集にあたって	津田 忠雄	1
駅伝を通してみた大学スポーツの現状と課題	佐川 和則	3
アスリートの心理的コンディショニング	直井 愛里	9
大学教育と競技スポーツを通じての教育 — 大学生アスリートとライフスキル教育プログラムの展開 —	津田 忠雄	13

#### 〈原著論文〉

A Study on the Transition Defense of the Ultimate Game for Flying Disc Sports	Hiroshi Oshima	27
自己物語への介入と「私」との関係 — ミノルと父との物語を通じて —	津田 忠雄	37

#### 〈実践報告〉

近畿大学通信教育部の健康スポーツ科学の授業の展開について (その2) — フライングディスク競技のディスクゴルフを教材として —	大島 寛	55
---	------	----

#### 〈集録〉

健康スポーツ教室公開講座について	岡田 龍司	61
活動記録		65

#### 〈その他〉

近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要寄稿規程		67
近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要編集委員会内規		68
近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要編集内規		68
近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要論文審査内規		69

## 近畿大学健康スポーツ教育センター

近畿大学  
健康スポーツ教育センター研究紀要  
第6巻 第1号

2007

近畿大学健康スポーツ教育センター

# 目 次

近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要 第6巻 第1号 2007

## 〈特集 競技スポーツと大学教育 —学生課外スポーツの現状と課題—〉

特集にあたって	津田 忠雄	1
駅伝を通してみた大学スポーツの現状と課題	佐川 和則	3
アスリートの心理的コンディショニング	直井 愛里	9
大学教育と競技スポーツを通じての教育	津田 忠雄	13
—大学生アスリートとライフスキル教育プログラムの展開—		

## 〈原著論文〉

A Study on the Transition Defense of the Ultimate Game for Flying Disc Sports	Hiroshi Oshima	27
自己物語への介入と「私」との関係 —ミノルと父との物語—	津田 忠雄	37

## 〈実践報告〉

近畿大学通信教育部の健康スポーツ科学の授業の展開について (その2) —フライングディスク競技のディスクゴルフを教材として—	大島 寛	55
---	------	----

## 〈集録〉

健康スポーツ教室公開講座について	岡田 龍司	61
活動記録		65

## 〈その他〉

近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要寄稿規程		67
近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要編集委員会内規		68
近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要編集内規		68
近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要論文審査内規		69

## 近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要寄稿規程

1. 本誌に寄稿できるのは近畿大学健康スポーツ教育センター専任教員に限る。但し、編集委員会が必要と認めた場合は専任教員以外にも寄稿を依頼することができる。
2. 寄稿内容は、体育学研究領域における総説、原著論文、研究資料（報告）、実践報告、研究・教育上の問題提起とし完結した未発表のものに限る。
3. 原稿掲載の時期は、編集委員会において決定する。
4. 本誌に掲載された原稿は原則として返却しない。
5. 原稿は400字詰、横書原稿用紙A4版にワープロまたはインク書きとし、本文はひらがな現代かなづかいとする。外国語をかな書きする場合はカタカナとする。
6. 原稿は原則として研究・教育上の問題提起などは図表を含めて上記原稿用紙20枚以内とし、総説、原著論文、研究資料（報告）、実践報告は50枚以内とする。
7. 図・表、原稿は必ず、A4版以内の大きさとし、直接印刷原稿のとれるよう黒インクによりトレースするか、数表文字はタイプ打ち、または活字を使用すること。写真は白黒写とし、方眼紙は薄藍色のものを使用する。
8. 表・図・写真にはそれぞれ通し番号とタイトルをつけ、1枚毎に台紙または原稿用紙にはり、本文とは別に番号順に一括する。また、必ず本文の図・表挿入箇所を赤インクにより指示すること。
9. 引用文献は、原則として、本文の最後に著者名をABC順に一括し、雑誌の場合には、著者名（発行年）論文名・誌名巻（号）：ページとし、単行本の場合は、著者名（発行年）書名（版数、ただし初版は略）・発行所：発行地、引用ページ（p.またはpp.）の順に記載する。なお、引用および注記の仕方の詳細は、日本体育学会発行、体育学研究「投稿の手引き」を参照すること。
10. すべての原稿には表題、所属、氏名の欧文を必ず添付すること。但し、原著論文については200語以内の欧文抄録と、その和訳を添付すること。
11. 原稿はコピーを含め、合計3部と原稿がセーブされたフロッピーディスク1枚を提出すること。また、論文内容が主として関係する研究領域と論文の分類を明記すること。
12. 本文、そのほかに使用した欧文はすべてタイプ打ちか活字を使用すること。
13. 共著の場合には、著者名とその所属を明記すること。
14. 共著者として氏名を出すものは、その論文の全般にわたり責任をもって応答できる共同研究者に限る。
15. 本紀要に掲載された論文の著作権は、近畿大学健康スポーツセンターに譲渡したものとする。ただし、事前に申し出があれば、筆者自身が自分の論文を利用することができる。

16. 原稿は近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要編集委員会に提出すること。
17. 本規程に反しているものは掲載しない。
17. 本規程の改定に健康スポーツ教育はセンター会議の議決(過半数)を必要とする。

付則：本規程は2002年1月1日より施行する。

## 近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要編集委員会内規

1. 健康スポーツ教育センター規程第7条により、健康スポーツ教育センター研究紀要編集委員会(以下委員会)を置く。運営は本規程により行うものとする。
2. 委員会は近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要の<英文名>(The Research Bulletin of Health and Sport Sciences)の編集に関して次の任務にあたる。
  - (1) 編集発刊に関する一切の業務
  - (2) 寄稿された論文の審査依頼、原稿の分類および原稿掲載可否の決定
  - (3) その他、編集に関する事項
3. 委員会は健康スポーツ教育センター会議により選出された委員若干名をもって構成する。委員の任期は2ヶ年とし、再任を妨げない。
4. 委員会に委員長をおく。委員長は委員の互選により選出する。
5. 論文審査のための論文査読委員は委員会の推薦により健康スポーツ教育センター長がこれを委嘱する。
6. 論文の審査規程および編集に関する事項は委員会において別に定める。
7. 委員会は査読担当者の評定に基づいて原稿の取捨を決定する。
8. 委員会の召集、開催については委員長が行う。
9. 本規程の改定には、健康スポーツ教育センター会議の議決(過半数)を必要とする。

付則：本規程は2002年1月1日より施行する。

## 近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要編集内規

1. 近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要は、年1回発行するものとし、その時期は3月1日とする。
2. 本研究紀要に掲載する論文は原則として次の通りとする。
  - (1) 総説 (2) 原著論文 (3) 研究資料(報告) (4) 実践報告 (5) 研究・教育上の問題提起など
3. 投稿者には別刷り50部を進呈する。
4. 本規程の改定には健康スポーツ教育センター会議の議決(過半数)を必要とする。

付則：本規程は2002年1月1日より施行する。

## 近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要論文審査内規

1. 本規程は、健康スポーツ教育センター研究紀要編集委員会規程に基づくものとする。
2. 編集委員会に提出された原稿は、寄稿者の希望する研究領域を参考として、論文査読委員の審査を受けるものとする。
3. 寄稿者あるいは共同研究者は、その論文の審査員になることはできない。
4. 担当論文査読委員は寄稿論文が健康スポーツ教育センター研究紀要寄稿規程に示された基準に沿っているか否かを検討し、掲載の適否を概要3段階によって評定し、その結果と根拠を編集委員長に報告する。
5. 論文審査の期間は原則として3週間以内とする。
6. 審査員が論文審査に困難を生じた場合には審査結果の報告書に次の事項を記入し、論文受領後1週間以内に編集委員に送付する。
  - (1) 困難な理由
  - (2) 他に論文査読委員として適当と思われる人
  - (3) その他の意見
7. 本規程は近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要編集規程2.の総説、原著論文、研究資料（報告）、実践報告、研究・教育上の問題提起の審査に適用する。
8. 本規程の改定には健康スポーツ教育センター会議の議決（過半数）を必要とする。

付則：本規程は2002年1月1日より施行する。

## 編集後記

「教育は奇跡を生み出すことができる」という言葉をどこかで聞いたことがあります。確かにスポーツ指導・教育の現場では、ある体験をすることによって、驚くほど学生が成長することがあります。それは、予測もつかない、思わぬ方向への転換であったり、〈こころ〉の成長であったりします。しかし、そんな時「奇跡」という言葉で表現される事象も、そのプロセスを詳細に検討したとき、起こるべきこととして起こっている場合が多いようにも感じます。ただ、そこには個人が何かをしなければならぬという、心満ち溢れた充実感がいつも漂っているかのようにも感じます。

教育の中での〈こころ〉の「奇跡」は、本人のたゆまぬ努力と支える関係者の中にあると考えます。誰でも、静謐な中で自分の心の裡に身を置くとき、何かを感じ、何かに気づくことができます。

特集「競技スポーツと大学教育—学生課外スポーツの現状と課題—」を組みました。経営学部経営学科スポーツマネジメントコースの開設とともに、健康スポーツ教育センターもこのコースに関わり、いくつかの講座を担当しています。また、何人かの教員は、課外スポーツの指導・教育に日々苦悩されています。

学生課外スポーツの指導・教育のあり方をいろいろ悩みつつ、考えながら、現場での、授業での学生を思い浮かべ、教育の「奇跡」はいつもそばにあると思うようになりました。

(津田忠雄)

## 執筆者紹介（目次順）

佐川和則 教授  
津田忠雄 助教授  
直井愛里 講師  
大島寛 講師  
岡田龍司 講師

## 編集委員会

委員 入川松博  
熊本和正  
佐川和則  
高島規郎  
津田忠雄（委員長）  
（五十音順）

---

近畿大学健康スポーツ教育センター紀要 第6巻第1号 2007年  
(通巻第6号)

平成19年3月31日 印刷

平成19年3月31日 発行

発行人 中本道昭

発行所 近畿大学健康スポーツ教育センター

577-8502 東大阪市小若江3丁目4番1号

印刷所 近畿大学 管理部 出版印刷課

---

KINKI UNIVERSITY

---

3-4-1 Kowakae, Higashiosaka-shi, 577-8502 Japan

---



# The Research Bulletin of Health and Sports Sciences

## Vol..6 No.1

### CONTENTS

#### Special Reports : Athletics and academic education

“The present condition and the issue of the student extracurricular sports”	
About Special Reports .....	Tadao Tsuda ..... 1
The present condition and the issue of college sports from the perspective of “Ekiden” .....	Kazunori Sagawa ..... 3
Metal conditioning for athletes .....	Airi Naoi ..... 9
Education through academic and athletics	
— Deployment of college student athletes and Life-Skill-Education Program — .....	Tadao Tsuda ..... 13

#### Original Investigations

A Study on the transition defense of the ultimate game for flying disc sports .....	Hiroshi Oshima ..... 27
Intervention to self-narrative and relation with “Me” — Through narration of Minoru and his father — .....	Tadao Tsuda ..... 37

#### Practice report

The development of the health sports science class at Kinki University correspondence course (2) — Using the disc golf of the flying disc as a teaching material — .....	Hiroshi Oshima ..... 55
---	-------------------------

#### Material

The health and sports room open lecture .....	Ryuji Okada ..... 61
---	----------------------

#### Activity Reports

2007

Institute of Health and Sports Science Kinki University

Osaka, Japan

# 特 集

## 競技スポーツと大学教育

—学生課外スポーツの現状と課題—

# 集 録

## 原著論文・著書・総説・研究資料など

2006年1月～2007年3月

区分	著者名	表題	掲載雑誌	巻	頁	年号
原著	津田忠雄	スポーツと自己物語 —ドミナント・ストーリーについて—	近畿大学健康スポーツ教育センター 研究紀要	5(1)	41-65	2006年 3月
問題提起	津田忠雄	からだの教育 ころの教育	近畿大学健康スポーツ教育センター 研究紀要	5(1)	7-19	2006年 3月
総説	Naoi, A., Deaner, H.	Psychological Response to Sport Injury and Psychological Skills Interventions for Injured Athletes.	近畿大学健康スポーツ教育センター 研究紀要	5(1)	35-47	2006年 3月
原著	直井愛里	スポーツカウンセリングから みたころの癒し	体育の科学	56	451-454	2006年 6月
原著	Watson II, J.C., Ayers, S.F., Zizzi, S.J., & Naoi, A.	Student recreation centers : A comparison of users and non-users on psychological variables.	Recreational Sport Journal	30(1)	9-19	2006年
原著	直井愛里	アスリートの苦悩 精神医学とのかかわり	精神科	10(2)	118-121	2007年 3月
原著	Hiroshi Oshima	A Study on the Transition Defense of the Ultimate Game for Flying Disc Sports	近畿大学健康スポーツ教育センター 研究紀要	6(1)	27-36	2007年 3月
原著	K. Kumamoto, T. Hirai, S. Kishioka and H. Iwahashi	Identification of a radical formed in the reaction mixtures of rat brain homogenate with a ferrous ion/ascorbic acid system using HPLC-EPR and HPLC-EPR-MS	Free Radical Research	in press		2007年

**学会または研究会  
(主催、司会、座長、発表、演者、指定討論者、ワークショップ)**

区分	著者名	演題	発表学会名	年 月
コーディネーター	津田忠雄	体の発達が脳と心の発達を支える -日本の教育再編に向けて-	大阪体育学会 教育領域研究会	2006年6月
演者	津田忠雄	大阪体育学会における研究の方向性 -領域別研究会に期待されるもの- 教育研究領域の立場から-	大阪体育学会	2006年3月
演者	直井愛里	アスリートやコーチが必要としている 心理サポートとネットワークについて -日米のアスリートを比較して-	日本スポーツ精神 医学会	2006年8月
演者	直井愛里	Similarities and differences in psychological issues among college athletes and coaches between the United States and Japan.	Association for the Advancement of Applied Sport Psychology	2006年9月
演者	津田忠雄	課外運動部の現在と未来 -大学課外スポーツの現状と課題	大阪体育学会 スポーツ領域・ 教育領域研究会	2007年2月
発表	K. Kumamoto, T. Hirai, S. Kishioka, and H. Iwahashi	Identification of a radical formed in the reaction mixture of rat brain homogenate with ferrous ion/ ascorbic acid using HPLC-ESR and HPLC-ESR-MS	The 13th Congress of SFRRRI 2006 (Davos, Switzerland)	2006年8月
発表	直井愛里	Athletes' multicultural backgrounds and experiences and their preferred consultant characteristics and backgrounds.	Association for the Advancement of Applied Sport Psychology	2006年9月
発表	津田忠雄	スポーツと自己物語 -自己物語を書くこと、物語ること-	日本スポーツ 心理学会	2006年12月
発表	津田忠雄	アスリートの自己物語と面談 -物語の織り合わせについて-	大阪体育学会	2007年3月